

にいがた
勤務医ニュース

発行所
新潟県医師会
新潟市中央区医学町通 2-13
TEL 025 (223) 6381

災害医療派遣の進化

新潟県医師会 理事 塚田 芳久



4月16日未明の本震を受け、昼前から県医師会担当部長として県庁に入り、災害医療派遣に協賛した。東日本大震災以来、来積み重ねた連携は即座の協議に結びついた。14日に出されたDMAT待機指令は、被災状況や距離などから短期で解除された。協議の結果、今後必要な医療支援を並行的に実施し、中長期的支援と見解で一致した。先ずは現地情報収集のため、宇土市への保健師派遣要請に県庁職員を随員として、18日に医療班編成。被災地へは、被災状況や距離などから短期で解除された。協議の結果、今後必要な医療支援を並行的に実施し、中長期的支援と見解で一致した。先ずは現地情報収集のため、宇土市への保健師派遣要請に県庁職員を随員として、18日に医療班編成。

熊本地震への医療支援



熊本地震における活動

熊本地震では2回現地に入る機会を得た。1回目の出勤は4月24日から5月2日までの災害医療中盤の3日間である。最初の3日間は日赤救護所として西原村で救護所診療や巡回診療を行った。後半の6日間は日赤災害医療コーディネーターとして、日赤現地災害対

新潟県が被災したとき、災害医療の主導権は誰の手に？

熊本地震でみえてきた
これからの被災地支援

長岡赤十字病院 医療社会事業部 内藤 万砂文

策本部で全国の日赤救護班の役割分担を指示するとともに、他組織との調整作業にあたった。2回目の出勤は5月15日から19日までの終盤5日間である。コーディネーターとして救護班撤収に向けて各本部や組織への訪問や会議を重ね、地元行政・医師会や外部支援者との情報共有に努めた。

被災状況では新潟県中越地震における山古志村のような激しい状況で、「ここはロケ現場か？」と錯覚しかねないほどの損壊家屋がある。最初の3日間、日赤救護所として西原村で救護所診療や巡回診療を行った。後半の6日間は日赤災害医療コーディネーターとして、日赤現地災害対

が、断層帯上と思われ、コンクリートの歩道は引き裂かれ1mもずれていた。ここに家屋があればひどく、まもなく、もしも原子力発電所があったら……との想像に恐怖を覚えた。南阿蘇村の崩落現場の規模の大きさにも圧倒された。

熊本地震にみる支援活動と問題点
熊本地震にみる支援活動と問題点
熊本地震にみる支援活動と問題点

熊本地震にみる支援活動と問題点
熊本地震にみる支援活動と問題点
熊本地震にみる支援活動と問題点

熊本地震にみる支援活動と問題点
熊本地震にみる支援活動と問題点
熊本地震にみる支援活動と問題点

症候群が注目された。避難所生活が難しい認知症の高齢者や小児やペットの対応など、災害弱者支援に課題が残っていることも再認識された。また、「地震がない熊本」に予想外の震度7の大地震が「深夜」に二度も起きたことによる、予測しにくい心理的障害の発生。また、小規模自治体のもとでの被災家屋の処理やインフラ整備の遅れは、心理的障害を長期化させる懸念があり、国を挙げて対応してほしいと思っ

東日本大震災以降は平時から災害医療支援が想定され、薬剤や医療資材の流動備蓄や訓練が企画された。熊本地震医療支援の検討は繰り返され、17日には保健師派遣要請に同行する形で派遣拠点設置のため県庁職員が21日派遣が決まった。これに対し新潟大学医学部総合病院は拠点設置を兼ねた医療支援班派遣を自主提案してきた。第1班は拠点設置、第2班は医療支援と業務分担した提案は、今回の医療支援では、地元から5月連休明けに縮小方針が出された。6班派遣という短期で撤収となった。そのため地域医師会や新潟県民医療推進協議会加盟の各医療職種からなるDMAT派遣はできなかったが、班編成依頼までは行えた。県内外への支援長期化に備え、訓練の契機となったと考

熊本地震にみる支援活動と問題点
熊本地震にみる支援活動と問題点
熊本地震にみる支援活動と問題点

熊本地震にみる支援活動と問題点
熊本地震にみる支援活動と問題点
熊本地震にみる支援活動と問題点

熊本地震にみる支援活動と問題点
熊本地震にみる支援活動と問題点
熊本地震にみる支援活動と問題点



新潟大学医学部 災害医療教育センター 高橋 昌

一連の熊本地震が被災した4月14日以降、かつてない規模の地震が次々と熊本県益城町を中心として発生し、最

熊本地震にみる支援活動と問題点
熊本地震にみる支援活動と問題点
熊本地震にみる支援活動と問題点

熊本地震現地で思うこと

新潟大学医学部 災害医療教育センター 高橋 昌

災害医療の最初の講義で、災害とは日頃の救急医療と正反対で「医療ニーズと、それに応える医療資源のアンバランスが生じた状態」であり、治療に取り掛かる前に指揮命令系統の確立や情報の共有、組織間連携、安全の確保とアセスメントをしつかりしなれば、結局成果は得られないと教えられるのですが、改めて現場で再認識することとなりました。

